

令和5年度第1回教育課程編成委員会 主な内容

<日 時>	2023年(令和5年)7月5日(水) 16:00~17:30
<会 場>	北海道医薬専門学校 看護館 2階視聴覚室
<出席者>	○外部の委員6名 ○学校関係者6名(校長、校長代理、学科長4名)

1 校長挨拶

2 参加者自己紹介

3 意見交換等

①今年度の各学科の目標、概況、履修科目等及び昨年度の就職率及び国家試験等の説明

<薬業学科>

- 就職はこの3年間 100%の達成状況であり、今年も同様の目標としている。
- WordとExcelは「即戦力」を目標として、1年次から履修できるようにしている。
- 次年度は2学科の統合により「薬業医療事務学科」とし、専攻を3つ設けて専門性を高める授業を展開する。

<医療事務学科>

- 薬業学科と同じカリキュラムは合同授業で実施している。また、クランク専攻は病院事務専攻と一緒に一部授業を実施している。
- 資格取得も順調であり、就職も早い段階で内定をいただいている。

<診療放射線学科>

- 一部を除いて対面で授業を実施しており、コミュニケーションを取りやすい。
- 3年生は旧カリキュラム、1・2年生は新カリキュラムで授業を実施している。
- 国家資格合格率も97.4%と高く、全道では本校以外は大学だが、4校中2位となっている。第1種放射線取扱主任者も4名の合格者が出た。

<看護学科>

- 今春の卒業生の就職に関しては、38名のうち1名は養護教諭課程の大学に進学となっている。
- 現在の2年生から新カリキュラムとなっており、令和6年度までは新旧カリキュラムが混在となる。
- 臨地実習に関しては、昨年度はコロナ禍により学内実習がほとんどであったが、今年度は各病院等に受け入れていただいている。
- 次年度に向けて電子教科書の導入準備を進めている。

②各学科の教育課程等に関する意見交換

- 委員：看護学科の電子教科書とはどのようなものか。
- 学科長：教科書の内容をアプリを使い学習するもの。学生にパソコンを用意してもらい、テキストの内容も確認できる。
- 委員：電子教科書導入に伴い、講師の声では、学生がノートパソコンの画面に集中しているため、学生の生の反応が分かりづらくなっているようだ。学生は慣れているので、電子マーカーなどで線を引くなどの活用はよくできているが、導入後の評価はこれからである。
- 委員：看護学科の就職先としての「実習施設」とはどのようなところか
- 学科長：3年生が実習でお世話になっている病院へのそのまま就職ことである。
- 委員：去年から放射線の技師法が変更されて、タスクシフトが導入されているが、その対応についてはどうなっているのか。今の3年生は旧カリキュラムだが、今後、職域の中でも、できる人とできない人がでてくるのではないか。例えば3年生に、1・2年の授業に参加させることも有効ではないか。
- 委員：看護学科の履修科目の中の「プロフェッショナルスキル」の内容を知りたい。
- 学科長：社会人になる上で必要なスキルや自分自身を知るところから深掘りし看護師としてのコミュニケーションの技術についても行うものである。
- 委員：ICT化の進行について、次年度の電子教科書導入以外の取り組みとしては何かあるか。
- 学科長：電子テキスト以外は、具体的には現状でお伝えできることはないが、市内の看護系の専門学校では9割が導入と聞いているので準備を急いでいる。
- 委員：本校ではGoogle Classroomを導入しているが、運用で行き詰っているところもある。
- 委員：指導は大変だが、各種検定等で毎年高い合格率を上げているのは素晴らしい。